

相楽中部消防組合消防本部(署)新庁舎建設に係る

土質調査(ボーリング調査)結果速報について

相楽中部消防組合消防本部(署)新庁舎建設に係る設計に伴い、城山台9丁目の新庁舎建設予定地において、土質調査(ボーリング調査)を実施しました。

土質調査(ボーリング調査)の方法は、ロータリー式ボーリング機械により、地面に直径10cm程度の穴をあけて地下の土を採取し、土質状況や地盤の強度を測定するものです。

調査箇所は、計画地点の代表的な中間箇所の小段2段目で、土砂が厚いと予想される谷状の箇所で実施しましたもので、新庁舎の訓練棟などの配置計画がまとまり次第、改めてボーリング調査を実施します。

相楽中部消防本部庁舎 ボーリング調査結果速報

ボーリング調査は計画地点の代表的な中間箇所がいたさいせきばつの小段2段目（下の図の調査位置平面図及び地質断面図のB-1、B-2、B-3地点の3箇所）で、土砂が厚いと予想される谷状の箇所で実施しました。調査の結果は、下図のように斜面の下に盛土（B）が分布し、斜面には崖錐堆積物（dt）および、基礎地盤の大阪層群（Os）が分布します。各層の状況は以下の通りです。

- ・盛土(B)：谷に盛り立てられた平坦地で、N値4~5の礫混じりの砂質粘土などが分布しています。
- ・崖錐堆積物(dt)：谷状の箇所に堆積した土砂状の堆積物です。現在は安定していますが、工事による掘削や豪雨で不安定になる可能性があるため、調査結果をもとに斜面を安定化するための対策を講じます。
- ・大阪層群(Os)：周辺の基盤をなす大阪層群の砂・粘土層です。全体にN値30以上の固結度の高い安定した地盤で、周辺の住宅地などもこの基盤の上にあります。

上記のように斜面には崖錐堆積物が分布していることが判明したので、この崖錐堆積物が崩れないような対策を講じて施工を進めます。

今後、新庁舎や訓練棟などの配置計画がまとまり次第、改めてボーリング調査を実施します。

